

令和6年度 第2回学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年9月13日（金）14時00分から15時40分まで
- 2 開催場所 和田小学校 視聴覚室
- 3 出席委員 安藤 小ゆり、神谷 みち子、齋藤 博、鈴木 滋芳、
早川 智美、林 實、山内 慶一
- 4 欠席委員 箕浦 利弘
- 5 オブザーバー なし
- 6 学 校 横井 靖二（校長）、岡本 綾子（教頭）、中西 伸（主幹教諭）
小粥 万祐子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 小粥 万祐子
- 9 校長挨拶
- 10 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、神谷委員を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。
- 11 前回会議録確認
- 12 協議事項
 - (1) 授業についての意見交換
 - (2) 今後の学校運営について
～1学期教育課程アンケート結果をもとに～
- 13 会 議 記 録
司会の岡本教頭より、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - (1) 授業についての意見交換・感想
会議前に授業参観を行い、それについて意見交換した。
 - ・残暑が厳しく、廊下を歩いているだけで暑い。教室にエアコンがあり、昔にくらべると環境が良い。特別教室にはまだエアコンがないので暑そうに授業をしていた。熱中症にならないように気をつけていただきたい。（山内委員）
 - ・特別教室にぜひエアコンをつけてほしい。（林委員）
 - ・4年生の音楽で暑いなかでも子供たちが元気よく歌を歌っていた。先生が、身体全体で指揮をしていてとてもよかった。（林委員）
 - ・3年生の授業で学活とは何か。（林委員）
⇒「学級活動」といい、自分たちの生活をよりよくしていこうと活動する時間（校長）

- ・ 4年生国語「ごんぎつね」で辞典を引いて言葉の意味を調べて書いていて、よい方法だと思った。 (林委員)
- ・ 授業中に子供たちが随時水分補給をしていて良いと思った。 (林委員)
- ・ 6年生の社会の歴史の授業で貴族から武士の世に変わる転換点での武士の心情を子供たちに考えさせていてよいと思った。昔は、とにかく、いつ何があったかを覚える授業だった。 (林委員)
- ・ 4年社会科「自然災害から暮らしを守る」という浜松市の取組を調べる学習に、最近の災害のことを考えて内容に期待したが、危機感が感じられなかった。市の備蓄等を調べることも大事だが、実際に災害がおきたらどんな被害が起きるかもっとリアリティのある授業の方が自分事として危機感をもって取り組めたのではないか。 (安藤委員)
- ・ 夏休みの思い出の掲示物から子供たちが様々な経験・体験をしていて幸せだと感じた。一方で、家庭の事情でそれらが十分にできない子もいる。民生委員として、そういう子にどういった経験をさせてあげられるかと考えた。 (安藤委員)
- ・ 夏祭り等地域の行事の記事もたくさんあり、子供たちにとって、とても楽しく思い出に残る経験であると改めて感じた。子供会は大変と言われているが貴重な経験の場であるので、ぜひ存続していただきたい。 (安藤委員・早川委員)
- ・ 5年図工でのコマ撮りの授業が、タブレットを使っていて今時の授業でおもしろいと感じた。 (早川委員・鈴木委員)
- ・ 「なぜそうなのか」という物事の理由付けをしていた。様々な事に通じる事なので大切だと感じた。 (鈴木委員)
- ・ 夏休みの思い出を新聞にかくことで、再度思い出がよみがえり記憶に残ると感じた。文章の書き方や構成の仕方を覚える良い機会でもある。 (鈴木委員)
- ・ 掲示物を見て、地域の行事は、子供たちも楽しみにしていて思い出に残るものなので、親の負担だからと子供会を辞めるのはどうか。子供たちのために在学中だけでも頑張っ
て参加してほしい。 (斎藤委員)
- ・ PTAの行事を外部団体に委託するという新聞記事を見て、時代の変化を感じた。 (斎藤委員)
- ・ 2学期が始まって2週間、暑い中頑張っている子が多いと感じるが、クラスによっては集中できてないところもあった。 (神谷委員)
- ・ 同じ教材でも、教師が学級の子供たちに合わせたやり方をしていた。 (神谷委員)
- ・ 6年社会の授業で、先生が熱く指導し子供たちもそれに応えていて、いい雰囲気だった。 (神谷委員)

(2)今後の学校運営について

主幹教諭から、令和6年4月18日に全国の小学校6年生を対象として行われた、全国学力・学習状況調査の結果と令和6年度1学期教育課程アンケート結果について説明があり、それについて意見交換をした。

① 全国学調の結果について

- ・ここ3年間毎年結果が良く、学習内容が身についていると感じる。 (神谷委員)
- ・学調の目的をよく理解する必要がある。文科省が出している解説に書いてある。それを理解したうえで、結果を見ることが大切。数値に一喜一憂するのではなく、足らざるところをどう補うかが大切である。学校だよりでその手立てを明記してあるのがよい。 (林委員)
- ・8月22日の静岡新聞の社説で学調について論評しているので、ぜひ読んでいただきたい。ランキングの公表は、目的にそぐわないと自分は感じている。論評の内容もそのようなものだった。 (林委員)
- ・過去5年間をさかのぼってみた時、今年特筆すべきことがあるのか。 (林委員)
⇒全体的には同じ傾向だが、ICT活用の質問で子供の評価が低かったのが意外だった。
授業で結構タブレットを使っているのだが。 (校長)
- ・記述の問題の正誤判定は誰がするのか。 (林委員)
⇒学校では採点・集計せず、提出している。全国同じ基準で採点している。 (校長)
- ・公立小学校は地域や子供たちの状況が様々であるため、単純に正答率で評価できるものではない。学校は傾向を見て課題を改善するために力を入れて指導したり、成果を得て手ごたえを感じたりしている。 (神谷委員)

② 学校生活アンケート

- ・今まで子供たちから挨拶された感じがあまりしなかったが、今日は子供たちから進んで挨拶があった。何か活動しているのか。 (齋藤委員)
⇒昨年度150周年を機に決めた「和田っ子宣言」をもとに、計画実行委員会が中心となって、「挨拶をしっかりやっぺいこう」と話し合いながら活動している。 (校長)
- ・2学期は青パトで下校の様子を見守っている時、声をかけると反応がよい。 (林委員)
- ・朝はテンションが低いのか、旗振りをしていても挨拶はあまり返ってこない。朝と昼では違うのかもしれない。 (早川委員)
- ・子供たちなりに、相手のことを評価・選択しているのではないかと。道ですれ違っても挨拶しないが、畑にいと挨拶をする。 (齋藤委員)
- ・高学年になるにつれて肯定的な回答が減るかと思っていたが、そのようなことはなく、がんばっていると嬉しく感じる。その中に一部学校が楽しくないと感じている子もいる。 (神谷委員)
⇒得られる情報から疑問に思うことを整理し自分で調べるという過程を大切に、時に友達と話し合い、時に先生に相談しながら学ぶ、いわゆる「個別最適な学び・協働的な学び」を理想として取り組んでいる。だが、子供たち全員が同じようについていけるかは難しい部分がある。それは、教員も同じで、全員が乗り切れているか難しいところではある。方向性を示して取り組んでいる。 (校長)

③ 自由記述について

- ・保護者の自由記述にある肯定的意見が、大多数の保護者の意見だと思う。（林委員）
- ・「テストの解答の解説、質問のしやすい環境づくりをしてほしい」「挙手した子だけ発言するのではなく、全員が発言できる機会をつくってほしい」という意見があるが、有用だと思うのでぜひやってほしい。（林委員）

<登下校について>

- ・集団登校を止めてほしいという意見があるが必要だと思う。なぜ必要なのか、有用性を説明できるとよい。旗振りを増やすことも必要ではないか。（林委員）
- ・旗振りが負担だという意見がある中で、増やすのは難しいのではないか。（齋藤委員）
- ・登下校の問題は、他の学校も同じではないか。保育園・幼稚園はバスや保護者の送迎が一般的。小学校になり、原則徒歩での登下校という仕組みがもう限界なのではないか。アメリカなどでは、スクールバスで登下校している。スクールバスが無理なら、送迎用の駐車場を整備する等、市や国など大きな単位で動かなければ、子供の安全は守れない。見守り等、自治会の方が頑張ってくださっているのに、当の保護者が暑いと言っているのは申し訳なく思う。（安藤委員）
- ・低学年の保護者はありがたいというが、高学年になると責任をもてない、必要ないという意見がある。（神谷委員）
- ・朝の見守り時に、子供たちに尋ねると、個別登校がいいという子が多い。兄弟が少なくなっている今、異年齢とのかかわりをもつ良い機会ではあると思うが。（林委員）
- ・集団登校をなぜやめたのか？
⇒集団登校の一番の目的は、新1年生を安全に登校させること。完全にはなくせないの
で、当校では、新学期が始まった4月から5月の連休明け1日目までとしている。
集団登校については、地域の交通事情等にもより各学校によって対応が違う。

（校長）

- ・6年生が1年生の世話をして登校している風景はよいものだった。（齋藤委員）

<災害時の引き渡しについて>

- ・地震の時と大雨の時に分けて、引き渡しの方法を保護者に伝えた方がいいのではない
か。（齋藤委員）
- ・これまでの経験から、保護者に教室まで来てもらって直接子供を引き渡す方法が一番混
乱しないと分かってきた。（校長）
- ・地震の時には、子供たちは外に避難していると思うが。（神谷委員）
⇒その場合は、運動場で保護者にその学級のところまできてもらって担任から直接引き
渡す。（校長）
- ・大雨の時、早く子供を家に連れて帰りたいとも思うが、実際に洪水が起きたら車で迎え
に来ることはできない。いろいろなパターンが考えられる中で、非常に難しい問題だと
感じる。（山内委員）
- ・この問題はどの学校も抱えていると思うが、学校間で情報交換、意見交換はないのか。
（林委員）

- ⇒起こった後に対応の結果を情報交換することはある。 (校長)
- ・ 子供を確実に保護者に引き渡すことが大事ではないか。 (神谷委員)
- ・ 大雨等で学校に引き留めになることを考えると非常食を常備する必要性を感じている。 (校長)
- ・ 非常食があると引き渡しが遅くなる時も慌てず対応できるのではないか。 (安藤委員)

14 その他

◎学校支援活動について

- ・ 神谷委員より令和6年度1学期もボランティア実施状況の報告があった。

◎諸連絡

- ・ 次回の学校運営協議会は11月20日(水)に開催するとの報告があった。

以上